

地域だより
三原 兵庫の古建築研修視察

三原支部 熊本 博文

昨年12月1日（日）、兵庫県加古川市の「鶴林寺」と明石市の「明石城跡」に、古建築研修視察に行きました。参加人員は34名。研修の講師には佐藤大規氏を迎え、朝7時発夕方7時帰着とかなりハードなものでした。10時半ぐらいに加古川の「鶴林寺」に到着し、山門から順に見学していきました。



この寺は聖徳太子と関連があり、当初は「四天王寺聖霊院」の寺号で、天永3年（1112年）鳥羽天皇の時に「鶴林寺」と改めたというもの。現在も平安前期の古像があり、建物は国宝、重要文化財及び県指定文化財で、時代的にも境内の紅葉と相まって素晴らしいものでした



本堂は鎌倉期応永4年（1397年）の再建と言われ、和様、禅宗様、大仏様の折衷様式として最高峰であろうと思われます

組物は2手先組物で中備の巾広で高さの低い板葺段に二斗、先の詰まった舟木。屋根は見た目に大きく2軒で、飛燕垂木は先細茂垂木、尾垂木は先端が大きく荘厳で、鎌倉期の創建当時の様式がうかがえるものでした。

太子堂の蔀戸からのぞいて見える釈迦三尊像は、暗闇の中で幻想的な感じでした。

室町期に建てられた行者堂は、隅木入り春日造りと表現されていますが、妻入り向拝付が全て春日造りかと言えば、少し疑問に思うところではあります。隅木、向拝もきれいに納まっており、王子造りの完成形ではないか

と思われます。王子造りとしては近辺では金刀比羅宮の睦魂神社（むつたまじんじゃ）がありますが、建築年代不明です。



建物の建築年代別の特徴の説明はとても分かりやすく、今後の年代査定の参考になると思います。昼食の後、次の「明石城跡」へ。そこは全体が明石公園となっており、多くの市民が利用していて驚きました。

築城は元和4年（1618年）。将軍徳川秀忠の時、西国への備えとして小笠原忠真に築城させた城で、当時は周囲に石垣を巡らし、本丸には御殿を築き、四隅に三重



の櫓、多聞や土塀を築いたようです。築城当時のものは櫓だけで、今に残る櫓は巽櫓（たつみやぐら）と坤櫓（ひつじさるやぐら）

で、あとは土塀があるだけです。櫓の屋根は建築当時からいろいろ考えていたらしく、この両櫓は屋根の形がお互いかなりの相違があります。片方に唐破風が付けば、片方で同じ層では千鳥破風にしたり、最上階の棟の向きが互い違いになっていたり。当然、戦いに備えてのがあるので、見栄えのことだけで造ってはいないと思いますが、ある程度は見栄えもあったのでしょう。

佐藤大規氏の話では、石垣は積み方があまり整然としていなくて、何積みと断定するのは難しい所が多いそうです。それはこの城はかなりの急ごしらえらしく、粗悪な石材も多く使われたためか、出隅にも割れた石が見られました。

今回の研修視察は2カ所でしたが、現地研修ならではの貴重な経験ができ、参加者の知識として吸収できたでしょう。これからも前向きに現地研修を重ねていけたらと思いました。

MONTHLY
No.89 建築士

HIROSHIMA



表紙写真について

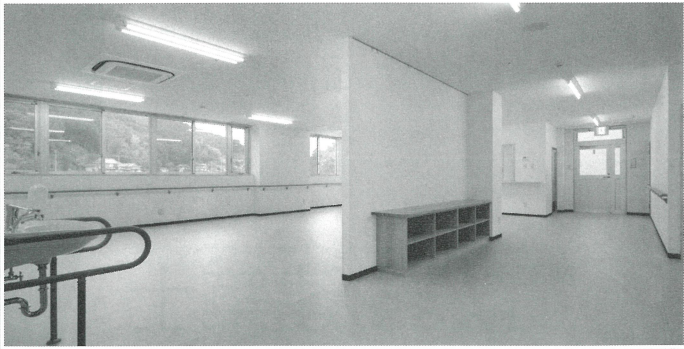
サービス付高齢者住宅 あけぼの

- 設計監理／有限会社 元廣建築設計事務所
- 施 工／株式会社 道下工務店
- 所 在 地／尾道市御調町
- 構造規模／S造 地上3階建
- 敷地面積／1,552.77㎡
- 建築面積／424.39㎡
- 延床面積／1,166.40㎡
- 竣 工／2012年10月
- 部 屋 数／個室20室 2DK室2室

尾道市郊外の自然豊かな地域に建つサービス付き高齢者向け住宅。外観は、自然豊かな周辺環境に調和する、北欧風の住宅をイメージした明るい印象を与える色合いにした。

■地域社会に貢献する施設

当該所在地の周辺地域では、高齢化と共に行き場のなくなる高齢者が増加しており、安価な利用料での入居を可能にするために低コストを重視した。



■個々の生活スタイルに対応する施設

大人数で利用する共同の食堂と、少人数で自炊等もできる食堂の2種類の共同生活の場と、3階には2DKの部屋を2部屋設け、居住者個々の生活スタイルに対応しやすい生活の場を目指した。

■介助してもらいやすい環境

各室に介助スペースのあるトイレを設置し、他の入居者の視線を気にすることなく介助してもらうことができる。

■日々の生活を楽しむ工夫

居住者が日々の生活を楽しめるように、作品の展示スペースとなる棚やピクチャーレールを設置し、3階にはイベント等に使用できるホールを設けた。

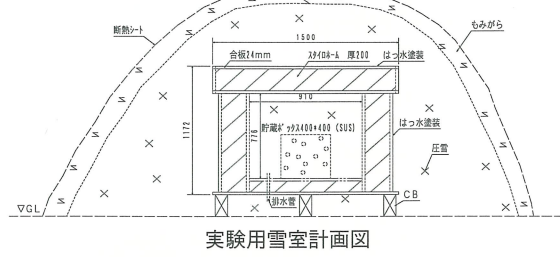


PROJECT NEWS ●県北支部主催

「プチ雪室をつくってみよう」

日時：2月16日(日)

場所：庄原市高町



雪深き県北…雪が降ると農地産業は止まってしまう。そんな邪魔者の雪を利用して、あるものを再利用し、安価で簡単に雪室を造ってみよう。天然冷蔵庫での保存はどこまでできるのか？保存物にどんな変化があるのか？みんなで実験してみます。興味のある方、是非ご参加ください！

ワークショップ

「建築に携わる道具の変化～職人さんの道具に触れてみよう」

日時：2月中旬

場所：庄原市立高小学校5～6年教室

昔、建物を建てていた時の道具や職人さんの知恵を紹介、実演します。また、現代の最新の建築道具の実演をし、子どもたちにも実際に体験してもらいます。



昨年の実演風景

CPD認定プログラム(2月～3月の広島県内実施分)

1月14日現在

日 時	プログラム名	単 位	主 催	連絡先
2/6	足場の組み立て等作業主任者技能講習 in 福山 第4回 1日目	7	建災防広島県支部	082-228-8250
2/6	建築改修工事監理指針(平成25年版)講習会	5	建築保全センター	03-3553-0070
2/7	足場の組み立て等作業主任者技能講習 in 福山 第4回 2日目	6	建災防広島県支部	082-228-8250
2/7	講習会「合成構造設計規準ならびに鉄骨鉄筋コンクリート構造計算規準」	5	日本建築学会	03-3456-2057
2/9	住宅講演会「もう一度はじめて木造建築を考えてみる」	2	広島県建築士会	082-244-6830
2/9	景観シンポジウム「公共空間のデザインのあり方」	3	広島市都市整備局都市計画課	082-504-2277
2/12	「実例に学ぶ建築士事務所のトラブル予防」研修会	3	広島県建築士事務所協会	082-221-0600
2/14	建設工事実務講習会	6	日本建築協会中国支部	082-232-6471
2/19	一級/二級/木造建築士定期講習(6D-04)	6	広島県建築士会	082-244-6830
2/19	講演会「太陽光発電パワーコンディショナの技術動向」	2	電気設備学会	03-5805-3375
2/25	建設業におけるモバイル(クラウド)・ソーシャルメディア活用術	6	インターウェーブ	099-812-0677
2/26	公共建築木造工事標準仕様書(平成25年版)	4	公共建築協会	03-3523-0381
2/27	新 総合工事業者のためのリスクアセスメント研修 in 広島 第3回	7	建災防広島県支部	082-228-8250
2/27	一級/二級/木造建築士定期講習(6D-05)	6	広島県建築士会	082-244-6830
3/10	すぐに実践!!現場で活かす!!現場の安全管理とリスクアセスメント	6	インターウェーブ	099-812-0677
3/12	良質のコンクリート構造物を造るには	6	インターウェーブ	099-812-0677
3/14	建設業におけるモバイル(クラウド)・ソーシャルメディア活用術	6	インターウェーブ	099-812-0677
3/18	酸素欠乏・硫化水素危険作業特別教育 in 呉	5	建災防広島県支部	082-228-8250
3/25	絶対80点以上!徹底解説!工事成績アップの10のポイント	6	インターウェーブ	099-812-0677

既存建築物の耐震診断・改修計画判定業務を行っています

(既存建築物耐震診断・改修等推進全国ネットワーク委員会加入)

- 指定確認検査機関
- 登録住宅性能評価機関
- 登録建築物調査機関
- 適合証明業務(フラット35)
- 住宅瑕疵担保責任保険業務
- 調査診断業務(耐震診断等)
- 住宅エコポイント関連業務

- 指定構造計算適合性判定機関
- 長期優良住宅認定審査業務
- 耐震診断判定業務

URL <http://www.jesupport.jp/>

皆様に、より良いサービスの提供に努めてまいります



株式会社 ジェイ・イー・サポート

代表取締役 石 山 講

本社 〒730-0029 広島市中区三川町7-1

TEL:082-546-1378 FAX:082-249-7190

e-mail: mail@jesupport.jp

支店:東京・札幌 営業所: 呉

安全で安心な住まいづくりをサポートします。



- ◆ 建築確認・検査
- ◆ 住宅性能評価
- ◆ フラット35 適合証明
- ◆ 長期優良住宅技術審査
- ◆ 低炭素建築物技術審査

◆ 住宅かし担保責任保険

住宅保証機構(株) (まもりすまい保険)
(株)住宅あんしん保証 (あんしん住宅瑕疵保険)
(株)日本住宅保証検査機構 (JIO わが家の保険)
(株)ハウスジーマン (ハウスジーマン住宅かし保険)
ハウスプラス住宅保証(株) (ハウスプラスすまい保険)



指定確認検査機関・登録住宅性能評価機関

株式会社 広島建築住宅センター

URL:<http://www.hkjc.co.jp>

本社 〒730-0013 広島市中区八丁堀 15-10
TEL(082)228-2220 FAX(082)228-2231
営業所 〒720-0034 福山市若松町 8-22
TEL(084)928-3979 FAX(084)928-3974

地域防災を考える～未来へ伝える地域の安全～

社会活動委員会 青年部 部長 柳河 元木
女性部 部長 橋本 明美

東日本大震災の発生から3年が経とうとしています。青年部会・女性部会はこの未曾有の災害を過去のものとせず、未来につながる災害を学ぶ場として位置付け、防災について広く社会に伝える取り組みを始めました。

昨年11月23日に開催された「第7回市民活動メッセ」に参加し、訪れる市民を対象に呉地区支部まちづくり委員会と協働で、防災について啓発活動を行いました。

■「紙ぶるる」を使用した耐震体験コーナー

紙で簡単に家を再現し、筋かいを入れた場合と外した場合の地震の揺れの違いを体験し、筋かいの効果を確認。子どもからお年寄りまで多数の参加者がありました。親子で体験又は子どもが体験したことを家族に話すことで、防災について話し合うきっかけになったと思います。



■災害に対する備えについてのアンケートを実施

家に防災袋を準備している・少ししている人の割合は、全体の約40%。防災袋の置き場所を家族が認識していると答えた人は65%でした。防災袋は押入や玄関に置いている人が多いようです。避難合流場所を家族で決めている人の割合は49%。その約7割の人が合流場所として地域での指定場所を挙げていました。このアンケート結果から、社会に対して災害に備える意識を喚起する必要があるという思いを新たにしました。

■非常用持ち出し品リストを配布

市販されている防災グッズを検証し、建築士会としての非常用持ち出し品リストを提案。

■石巻視察パネル展示

一昨年9月に訪れた石巻の状況報告パネルを展示し、未だ復興半ばであることを伝えました。今後は様々なイベントに参加し、建築士として防災の啓発活動を行う予定です。また被災地の震災時体験を学んで、災害に対する備えや災害後の支援の在り方を考え、災害に強いまちづくりを提案していきたいと考えています。

地域だより
福山

「柿渋 一閑張りで小物を作ろう!」に参加して

福山支部女性委員会 門田 昌子

昨年10月27日、第1回体験学習会を開催。参加者は17名（一般9名、建築士会員8名）でした。

柿渋は平安時代より使用されていたそうで、備後柿渋は日本三大柿渋として備後地方で多く生産されてきた歴史があります。その地元の自然素材の柿渋を使って、「一閑張り」を実際に体験しました。

NPO法人『ぬまくま民家を大切に作る会』の渡辺理事長から柿渋についての歴史、施工性、活用方法や現状についてのレクチャーがありました。尾道に唯一残っていた工場が2012年に廃業を決めたことから、会で機材と技術指導の提供を受け、一昨年秋に柿渋工場の操業を開始されました。

癒し系和風インテリアグッズとして注目されているのが「一閑張り」です。「一閑張り」とは、竹籠に和紙を貼り、その上から柿渋を塗ったものを言います。牧平真由美先生より作り方の説明があり、作業を開始。各自好きな籠を選び、古い和紙を切って籠に隙間がないように丁寧に貼っていきます。そして好きな文字や絵を貼ります。柿渋は臭いがするので、柿渋を薄く塗って乾かす作

業を数回繰り返して出来上がります。出来上がりは、写真のようになります。こちらの作品は10年経っているそうです。自分たちの作品がこんな風になることを想像して、頑張りました。



手間のかかる「一閑張り」ですが、物づくりの楽しさや先人の知恵を知り、楽しく体験学習することができました。女性委員会では、作業工程の冊子も作成しました。

●NPO「ぬまくま民家を大切に作る会」

福山市沼隈半島地域を中心に、古民家の調査とその保存・再生活動を行っている団体で、福山支部女性部会も様々な活動を通して交流を持っています。(問い合わせ先：080-9653-5841)

地域だより
呉地区

第30回 呉建築セミナー「自然・歴史・文化をつなぐ建築」

呉地区支部事業委員会 委員長 篠部 裕



昨年11月29日(金)、第30回呉建築セミナーが開催され、講師には建築家の栗生明先生【(株)栗生総合計画事務所主宰、千葉大学名誉教授】をお迎えした。講演会

の参加者は154名。講演は日本建築の美学を①古さと新しさ②身体性③繕い、の3つの切り口から捉え、それが栗生氏の建築設計とどのように関係しているかという構成で進められた。

講演後の質疑応答では参加者から活発な質問があったが、その多くは建築を学ぶ学生によるものであった。ここでは今回のセミナーに参加した学生の感想文を紹介し、講演会のレポートとしたい。

●呉建築セミナーに参加して

呉工業高等専門学校2年 小田原 祐香

今回の講演の中で1番心に残ったのは、「建築物の設計に当たっては、新築ではなく増築だと思わせるようにしている」という栗生先生の言葉です。新しい建築物も自然やその土地から見れば増築なので、自然、土地に合った

建築物を建てなければいけないと思いました。将来建築物を設計する時に、必ず思い出すようにしたいです。これは後から言われた、「前からあるものとどうつなげていくかが建築」という言葉と同じだと思います。

今回の講演会で、「国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館」は、みんな水を求めて亡くなっていったから水の流れを重要視して設計されていることを知りました。遺族の思いから地上ではなく地下に造り、地上の水盤の7万の小さい粒が、1つ1つ違う光り方をしているのがとてもきれいでした。これは7万人の人々の個性を表しているようで、素晴らしいアイデアだと思いました。

日本の建築美学は、自然・歴史・文化をつなぐことで、私はこの3つのことをこれからもずっと頭に入れておこうと思います。

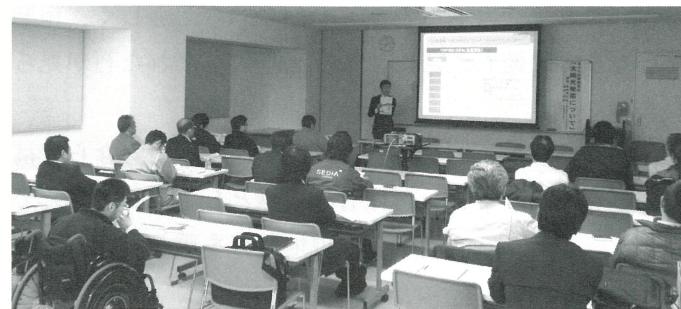


地域だより
呉地区

第4回 省エネ対策講習会「太陽光発電について」

呉地区支部青年委員会 柏田 貴志

12月13日、第4回省エネ対策講習会を開催しました。青年委員会が2012年から開催しているこの講習会を、不定期ながらも続けてこられたのは、ご協力いただいた企業様や地域の学校・市民センターのおかげです。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。



今回は「三菱住環境システムズ(株)」の藤崎様を講師としてお招きし、講義をしていただきました。太陽光発電に対する私のイメージは、かなりの初期投資を要しながらも安定した発電量が得られない、というものでし

た。しかし今回の講習会を通じて、パネル設置のシステム化・合理化や発電量の確保の為に屋根面積の有効活用等、技術の進歩を実感させられました。2012年7月にスタートした再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度が、太陽光発電の普及や技術の進歩を確実に後押ししていることも感じられました。

今回は23名の方が参加され、質疑応答の際にも多くの手が挙がりました。既存住宅の屋根へのパネル設置方法や、補助金・保証関係の質問が大半を占め、特に太陽光発電導入の際の具体的な質問が多かったことから、参加された方々の関心の高さがうかがえました。

私自身も、今後の仕事や将来自分の家を建てる時の参考にしようと思っていますので、青年委員会の他のメンバーにも、大変勉強になったはずです。

今後もこのような講習会を開催する予定ですので、多数のご参加をお待ちしています。